令和６年度
空知管内地域農業づくり懇談会　資料

ページ

Ⅰ　普及活動概要　・・・　１

Ⅱ　地域課題及び広域推進事項　・・・　５

Ⅲ　活動体制表　・・・１０

Ⅳ　令和５年度普及活動事例　・・・１１
・GAP認証取得を目指した地域の取組
・複合経営の安定化と担い手を核とした地域農業の振興
・土地利用型作物導入による生産基盤の向上

本　所
生産原価分析を支援

空知南東部支所
スライストマト現地研修

空知南西部支所
４Hクラブ勉強会

中空知支所
水田土壌の現地研修

北空知支所
「花育活動」を支援

空知南西部支所・広域
生産工程管理を確認中

令和６年７月１０日

空知農業改良普及センター

Ⅰ　普及活動概要

１　空知農業の課題

(1)農家戸数の減少と１戸あたり経営面積の拡大による労働力不足
(2)農業の担い手減少と人口減少に伴う集落機能の低下
(3)基幹作物である「米」の価格低迷による農業所得の減少
(4)規模拡大に伴う労働時間の多い高収益作物の減少
(5)水田転作作物の連作障害、土壌物理性の悪化
(6)家畜が少ないことによる有機物不足

２　第６期北海道農業農村振興推進計画に基づく空知農業改良普及センターの活動方針

(1)持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

①生産基盤強化に向けた支援
②安全・安心な食料の安定生産向けた普及支援
③農業経営の安定化に向けた技術支援
④環境と調和した農業生産に向けた取り組み支援
⑤情報ツールを活用した農業者や消費者への情報発信

(2)国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

①空知ブランドを高める広域連携型産地の育成支援
②実需に対応した新規作物の導入支援
③地域の特色ある農産物ブランドづくりの支援
④高付加価値化に向けた地域資源や地域加工技術の活用支援
⑤地域ぐるみの６次産業化、直売事業による地域の雇用機会の創出支援

(3)多様な人材が活躍する農業・農村の確立

①新規就農者を含む担い手の確保、定着、育成に係わる活動支援と学習活動の推進
②指導農業士・農業士との連携や活動支援、女性農業者・青年グループの活動支援
③女性農業者・青年農業者の経営参画に係る栽培技術や経営管理手法の習得支援
④法人、農作業受委託組織等の活動支援
⑤地域の雇用労働力確保のためのシステムづくり、農福連携活動への支援

(4)道民の理解に支えられる農業農村の確立

①農業者と地域住民、関係機関等が参画した共同活動の支援(農業の多面的機能)
②グリーンツーリズムなど消費者と生産者を結ぶ取り組みへの支援
③地産地消の推進と地域住民との交流促進
④直売所店舗等を通じた消費者との交流促進
⑤食農・環境教育による消費者と繋がる・繋ぐ場づくりの支援

高温登熟条件での適期収穫啓発
（中空知支所）

全国派遣決定を喜ぶそらち南さつまいも
クラブ員と空知南東部支所の担当者）

３　活動体制と活動方法

⑴ 空知農業改良普及センターの活動体制

地域係　　　：特定の地域担当する。
広域スタッフ：広域推進事項を担当するほか、地域係を支援する。
専門スタッフ：担当する専門分野について広域的に活動するほか、地域係を支援する。

⑵ 重点活動と成果の波及

担当地域（係）ごとに重点地区を定め、重点地区の合意により解決すべき課題を設定し、チームで活動する。重点活動で得られた成果は、研修会などを通じて他の地域に波及する。

⑶ 地域活動（計画活動）：地域における個別課題の解決

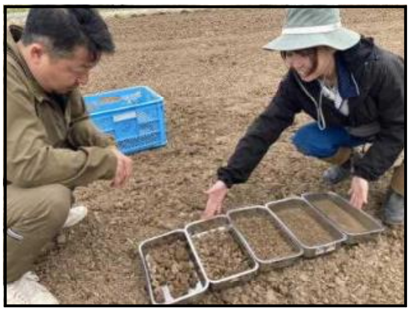
⑷ 要請活動：農業関係団体や個別経営体からの支援要請に対する対応

４　重点活動計画の概要

○令和６年度　重点的に取り組む地域課題の活動概要一覧

令和６年度　重点的に取り組む地域課題の活動概要

本支所	課題名	対象地区 対象戸数	担当係	活動内容
本所	輪作の推進と花き生産力の維持による持続可能な農業経営	岩見沢市栗沢町越前・自協地区(22戸)	地域第一係	①水田の汎用利用による輪作の推進 ②花き生産力の維持に向けた技術の普及 ③多様な人材を活かした労働環境づくり支援
	複合経営の安定化と担い手を核とした地域農業の振興	美唄市西美唄地域（19戸）	地域第二係	①直播水稲の基本技術実践の支援 ②担い手による地域農業振興の推進
南東部支所	新たな担い手による経営の確立と地域活性化	栗山町日出地域（14戸1法人）	地域係	①新規就農者の定着促進 ②新規法人の営農体制の構築支援 ③地域での有害鳥獣被害防止体制の確立支援
南西部支所	土地利用型作物導入による生産基盤の向上	長沼町25区（９戸）	地域係	①子実用とうもろこしの生産性向上技術の普及 ②地域条件に適した水稲乾直栽培の技術実証
中空知支所	水稲を基幹とした経営の確立	新十津川町総進4・5地区（13戸）	地域第一係	①土地利用型作物の安定生産技術の普及 ②高収益作物（にんにく）の導入推進 ③担い手への技術伝承と資質向上支援
	安定生産と効率化による地域農業の永続化	滝川市江部乙町2-2地域（５経営体）	地域第二係	①基盤整備後の高品質水稲生産技術の普及 ②新規導入品目（加工用トマト）定着支援 ③ＩＣＴを活用した小麦の可変施肥の利用拡大
北空知支所	水稲を基幹とした持続可能な複合経営の確立	深川市納内東豊地区（13戸）	地域第一係	①水稲省力化技術の改善・定着の推進 ②ひまわりの栽培技術改善の推進 ③畑作物の収量安定化による所得確保の支援
	担い手を核とした持続可能な経営体の育成	沼田町共成地区(16戸)	地域第二係	①若手農業者個々の営農課題解決の支援 ②水稲疎植栽培技術の実践支援
	新たな水田複合経営の確立	雨竜町中島地域（８戸）	地域第三係	①基盤整備後の水稲安定生産技術の普及 ②メロン栽培での自動換気システム等の実証 ③経営分析の推進による経営管理能力向上支援



水田の汎用利用による輪作の推進
（本所）

高収益作物（にんにく）の導入推進
（中空知支所）

５　普及センターが主に推進する具体的な項目

(1) 持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

ア 生産基盤の強化

(ｱ) 試験研究による新技術開発への協力や新技術の普及定着

(ｲ) 農地基盤整備事業との連携による農地利用の効率化

(ｳ) ほ場の排水改善、緑肥の活用、有機物施用等による土づくりの推進

(ｴ) スマート農業技術に関する技術情報の提供等、先端技術導入に向けた支援

イ 安全・安心な食料の安定生産の確保

(ｱ) 稲作経営の安定化

a 高品質・良食味米及び高度クリーン米、業務用米、加工米の安定生産支援

b 省力・低コストに向けた水稲直播栽培及び疎植栽培、高密度播種移植栽培、置床鎮圧育苗技術の確立支援と普及

(ｲ) 畑作経営の安定化

a 透・排水性改善や有機物施用等適正な土壌管理による生産性の向上

b 転作作物の適正導入及び高品質・安定生産を通じた所得確保の推進

(ｳ) 園芸経営の安定化

a 地域重点品目の安定生産と消費者ニーズに対応した野菜・花き・果樹栽培技術の普及

b 実需者が求める(加工・業務用を含む)園芸作物産地の育成支援

(ｴ) 畜産経営の安定化

a 稲WCS等を活用した粗飼料生産基盤の充実と耕畜連携の推進

b 肥育素牛を効率的に生産する肉牛経営の確立

(ｵ) 環境と調和した農業生産に向けた取り組みの支援

a みどりの食料システム戦略に対応したグリーンな栽培体系への転換サポート等への支援

b GAP、HACCPの導入推進及び総合的病害虫・雑草管理(IPM)による環境負荷低減対策の普及

(ｶ) 様々な情報ツールを活用した農業者や消費者への情報発信

a 農業者に対する生産技術の情報発信

b 消費者に対する農業者等の取り組みに関する情報発信

(2) 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

ア 空知ブランドを高める広域連携型産地(ゆめぴりか、新規需要米等)の育成支援

イ 実需に対応した新規作物の導入支援

ウ 地域の特色ある農産物ブランドづくりの支援

エ 高付加価値化に向けた地域資源や地域加工技術の活用支援

オ 地域ぐるみの６次産業化、直売事業による地域の雇用機会の創出支援

(3) 多様な人材が活躍する農業・農村の確立

ア 新規就農者の確保、定着、育成に係る活動支援

イ 指導農業士・農業士会を核とした次代の担い手育成及び農業高校等との連携

ウ 女性農業者の組織活動やネットワーク活動に対する支援

エ 担い手育成・確保に係る農業ゼミナール開催や青年グループ活動支援

オ 空知管内担い手の育成・確保を担う各協議会等との連携

カ 女性農業者や青年農業者の経営参画に係る栽培技術や経営管理手法の習得支援

キ 法人化及び法人運営に対する支援

ク 農福連携活動への支援

(4) 道民の理解に支えられる農業・農村の確立

ア　農業者と地域住民、関係機関等が参画した共同活動の支援(農業の多面的機能)
イ　グリーンツーリズムなど消費者と生産者を結ぶ取り組みへの支援
ウ　地産地消の推進と地域住民との交流促進
エ　直売所店舗等を通じた消費者との交流促進
オ　食農・環境教育による消費者と繋がる・繋ぐ場づくりの支援

6　試験研究機関、地域関係機関との連携

(1) 第６期北海道農業農村振興推進計画の実現に向けて、総合振興局産業振興部各課と連携した普及活動を推進する。
(2) 地域農業技術支援会議等と連携し、緊急かつ重点的な課題解決を図る。
(3) 地域の農業振興に係る課題や農業者のニーズを反映した普及課題を設定し、解決方法の合意形成と役割分担により地域関係機関や団体と連携して、普及活動を展開する。

7　普及活動の推進

(1) 普及活動の重点化

普及活動は、活動区域を基本として地域に密着した活動を推進する。また、地域における課題を重点化し、重点的地域を対象とした農業者や関係機関との合意形成に基づき、提案技術の実証により地域の課題を解決するための支援を行うものとする。

(2) 本所・支所の効果的連携と広域的な普及活動の推進

本所・支所間で情報を共有化するとともに、必要に応じ支援体制を整えながら活動を展開する。また、地域係が担当する地域の課題解決対応で不足する場合は、広域班の支援体制により普及活動を推進する。

農業協同組合の広域合併や広域的な産地形成等に対応し、技術的な課題は本所・支所間において広域的に取り組む。管内における共通重要な課題はセンターとして迅速かつ効率的に解決するため、地域係と広域班が連携した普及活動を展開する。

(3) 普及職員の資質向上と調査研究

普及職員が農業分野における技術革新や農業者の高度かつ多様なニーズに対応するため、OJT、職場研修、専門担当者会議で職員の資質向上に努める。また、横断的な地域課題解決や専門課題については、専門担当者会議(水稲、畑作、園芸、畜産)を基本とした調査研究活動を行う。

水稲低コスト・省力化 現地研修会
(空知南西部支所)

地場産飼料の活用意向をヒヤリング
(北空知支所)

Ⅱ　地域課題（重点的に取り組む地域課題を除く）及び広域推進事項

1　地域課題一覧(1)

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的推進事項 (現況→目標)	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
2	新規参入者に対する営農支援	①営農計画所得目標の達成 ・達成農家戸数 （０戸→２戸）	岩見沢市 三笠市	令和の開拓の会(4戸)	平門専主 松谷係長 平松専主 佐藤専普 宗像普職	R５ ～ R６
3	岩見沢市４Hクラブの活動支援	①プロジェクト活動の充実 ・到達度５点中3.5点以上達成会員割合 (22%→60%)	岩見沢市	岩見沢市 ４Hクラブ (16名)	小玉普職 宗像普職	R５ ～ R６
5	月形町ミニトマト安定生産	①ミニトマトの生産性向上 ・株収量３kg以上達成農家戸数 （３戸→10戸）	月形町	キャロル10作付け者(19戸)	布目係長 上原専主 村　主査	R３ ～ R６
6	優れた農業者の活動推進	①組織活動の推進 ・若手農業者への技術指導回数 （０回→１回）	夕張市 由仁町 栗山町	空知南東部地区指導農業士・農業士会 (78名)	小林専普 古川係長	R６ ～ R７
7	業務用トマトの安定生産	①新規導入品種の生産性の向上 ・規格内収量 （－ﾄﾝ/10a→7.5ﾄﾝ/10a）	由仁町 栗山町	JAそらち南スライストマト部会(18戸)	芝木普職 林専主 増井専主 本間普指	R４ ～ R６
8	ミニトマトの安定生産	①生産安定の取り組み ・８～９月出荷量の向上 (40ﾄﾝ→43ﾄﾝ)	夕張市	JA夕張市ミニトマト部会 (40戸)	増井専主 芝木普職	R６ ～ R７
9	若手女性農業者の育成	①若手女性農業者の活動推進 ・勉強会の開催 （２回→２回）	由仁町	WEAVE (9名)	増井専主 古川係長	R３ ～ R７

地域課題一覧(2)

課題番号	課題名（関連事業）	具体的推進事項（現況→目標）	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
10	青年農業者の育成	①プロジェクト活動の推進 ・共同プロジェクト活動取組数 （１課題→１課題）	由仁町	由仁町４Ｈクラブ（9名）	本間普指 田中主査	Ｒ４ ～ Ｒ７
12	青年農業者の育成	①自主研修会及び勉強会参加率の向上 勉強会参加人数（延べ人数） （39名→50名）	栗山町	栗山町４Ｈクラブ(20名)	平田専主 芝木普職	Ｒ３ ～ Ｒ７
13	秋まき小麦の安定確収栽培の確立	①起生期茎数に基づく追肥 ・適正追肥実施人数 （９名→10名） ②止葉期以降の後期追肥 ・追肥実施人数 （６名→10名）	南幌町	若手農業者（10名）	植松専普 菅原専主 市野普指	Ｒ６
15	水稲新品種「そらきらり」の安定生産	①「そらきらり」疎植栽培における窒素施肥量の確立 ・施肥改善実施戸数 （０戸→２戸）	南幌町 長沼町	「そらきらり」作付け農業者（25戸）	早勢専普 古館係長	Ｒ６ ～ Ｒ７
16	振興作物の安定生産	①土壌分析値に応じたたまねぎの適正施肥 ・リン酸減肥戸数 （１戸→２戸）	長沼町	玉葱生産組合（24戸）	栗山専普 西原専主 古館係長 市野普指	Ｒ６
17	高品位米生産技術の向上	①高品位米出荷率の高位安定化 ・秋耕起実施率 （82%→90%）	砂川市 奈井江町	JA新すながわ「特別栽培米生産組合（68戸）	竹原専普 山田普職 楢舘主査	Ｒ３ ～ Ｒ６

地域課題一覧(3)

課題番号	課題名（関連事業）	具体的推進事項（現況→目標）	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
18	施設園芸の省力化技術の推進	①省力化技術の導入 ・管理時間低減に向けた環境測定、自動換気、自動かん水システム導入農家数（10戸→15戸）	砂川市 奈井江町	JA新すながわトマト・ミニトマト・きゅうり生産者（76戸）	平石普指 楢舘主査	R５～R７
20	酒米生産技術の向上	①酒米品質の安定化 ・適正育苗管理実施農家戸数（０戸→８戸）	新十津川町	ピンネ酒米生産組合（15戸）	新井係長 山田普職 竹原専普	H28～R６
21	小麦生産技術の向上	①小麦の安定生産 ・適正管理項目の理解度向上農家戸数（０戸→７戸）	奈井江町	秋まき小麦作付農家戸数（32戸）	宇都宮普指 楢舘主査 新井係長	R６～R８
22	稲WCSの安定生産に向けた支援	①安定生産にむけた栽培技術の検討（０戸→３戸）	芦別市	稲WCS生産農家（5戸）	藤本専普 水尾専普	R６～R７
23	大豆の安定生産に向けた支援	①作業体系の見直し（０戸→３戸）	芦別市	大豆生産農家（4戸）	山本普指 菊池係長	R６
24	にんにくの安定生産	①基本技術の励行 ・技術項目達成戸数（０戸→10戸）	滝川市 芦別市 赤平市	JAたきかわにんにく生産農家（15戸）	澤口普指 菊地係長	R６～R８
25	「えみまる」採種栽培技術の確立	①早期以上出穂抑制技術の導入（０戸→２戸）	滝川市	江部乙町水稲採種組合（15戸）	渡辺専職 水尾専普	R６～R７
28	新たな農業技術の地域定着化	①稲WCSの安定生産 ・品質確保に向けた適正稲体水分含量での収穫農家戸数（０戸→８戸）	深川市	稲WCS用稲栽培農業者（20戸）	松本係長 山黒専普 葉山普職	R５～R６
30	加工用トマトの収量・品質向上	①適正施肥の確立 ・沼田町総出荷量（平年:300ﾄﾝ→350ﾄﾝ）	沼田町	加工用トマト生産組合（25戸）	志和専主 太田専普	R５～R７

地域課題一覧(4)

課題番号	課題名（関連事業）	具体的推進事項（現況→目標）	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
31	水田後作の秋まき小麦安定生産	①水田後作における秋まき小麦は種前の効率的・効果的な作業体系の確立 ・前作水稲の栽培、農作業体系の確立 ・排水対策及び適正な耕起方法の検討と実践 排水対策技術実施戸数（０戸→６戸）	妹背牛町	妹背牛町内水田後作秋まき小麦作付け農業者（26戸）	安藤専普 辻　係長	Ｒ６ ～ Ｒ７

地域課題一覧(広域専門主査)

課題番号	課題名（関連事業）	具体的推進事項（現況→目標）	主たる対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
33	市場性のある和牛素牛・繁殖牛生産	①和牛素牛飼養管理技術向上支援 （増体向上農家　０戸→１戸）	由仁町 栗山町	肉牛農家（15戸）	雨宮主査	Ｒ６
34	田畑輪換における畑作物の施肥改善	①微量要素測定結果に基づく施肥の実践 （０戸→２戸）	岩見沢市	田畑輪換を先進的に取り組む農家（2戸）	森主査 松谷係長	Ｒ５ ～ Ｒ６
35	醸造用ぶどうの安定生産	①簡易防鳥ネットを活用した野生鳥害対策技術の実践 （０戸→１戸）	岩見沢市	鳥害を受けている醸造用ぶどう生産農家（2戸）	猫塚主査 松谷係長	Ｒ５ ～ Ｒ６
36	良品質稲WCS生産技術の確立と耕畜連携の推進	①肉牛農家のニーズに合う稲WCSの生産 （稲WCSの品質に満足した肉牛農家戸数　４戸→７戸） ②稲WCSほ場における堆肥の新規活用 （０戸→１戸）	深川市	深川市肉牛農家（7戸） 深川市稲WCS生産農家（20戸）	松浦主査 松本係長 山黒専普 葉山普職	Ｒ６ ～ Ｒ７

2　広域３部門推進事項一覧

業務区分	推進事項名	主たる対象市町	普及対象	担当者
担い手	多様な人材が活躍する農業・農村の確立 ①空知管内広域組織の活動強化と人材確保・定着支援 ②空知管内女性農業者の活動支援 ③地域農業を支える多様な人材の活躍支援 ④農業組織経営体の情報収集・蓄積と各種提供提供	空知管内	新規就農者等、空知4HC連絡協議会、北海道農業士空知地区連絡会議、北海道指導農業士空知地区連絡会議、空知管内女性指導農業士・農業士 空知管内女性ネットワーク、空知管内若手女性農業者等 農福連携志向農業者、福祉事業所等 農地所有適格法人、地域農業支援組織等	桂川主査 小柴主任 笠原主任 本・支所 担当者
情報・ クリーン・ 有機	普及情報システム化の推進 ①普及情報の共有化 ②外部への情報発信	空知管内	普及指導員	富樫主査 笠原主任 小柴主任 本・支所 担当者
	環境と調和した農業の推進 ①有機農業の推進 ②GAPの普及推進		空知有機農業ネットワーク会員及び有機農業者・有機農業志向者 空知管内農業者および生産団体・農業高校・関係機関	富樫主査 笠原主任 小柴主任 本・支所 担当者
高付加価値化	高付加価値化の推進 ①高付加価値化ステップアップ支援 ②高付加価値化の情報提供と支援	空知管内	ステップアップ志向農家・グループ・地域 高付加価値化実践または志向農家・グループ・地域	佐竹主査 小柴主任 本・支所 担当者

Ⅲ　活動体制表

片山所長

佐々木 次長

本所地域班	区　分	責任者	担当者
	地域第一係 岩見沢市 三笠市	松谷係長	平門専主　平松専主　図師専普 佐藤専普　小玉普指　宗像普職
	地域第二係 美唄市 月形町	布目係長 村主査	谷 専主　上原専主　服部専普 谷村専普

空知南東部支所
木　村 支所長

支所地域班	区　分	責任者	担当者
	地域係 夕張市 由仁町 栗山町	古川係長 田中主査	平田専主　林　専主　増井専主 本間専普　小林専普　芝木普職

空知南西部支所
辻 支所長

支所地域班	区　分	責任者	担当者
	地域係 長沼町 南幌町	古館係長	菅原専主　西原専主　坂内専普 早勢専普　植松専普　大山専普 市野普指

中空知支所
山　田 支所長

支所地域班	区　分	責任者	担当者
	地域第一係 砂川市　歌志内市 奈井江町　上砂川町 浦臼町　新十津川町	新井係長 楢舘主査	竹原専普　平石普指　宇都宮普指 山田普職
	地域第二係 芦別市　赤平市 滝川市	菊地係長	水尾専普　藤本専普　山本普指 澤口普指　渡辺専職

北空知支所
八　田 支所長

支所地域班	区　分	責任者	担当者
	地域第一係 深川市	松本係長 吉田主査	酒井専主　山黒専普　平石普指 大平普職　葉山普職
	地域第二係 妹背牛町　秩父別町 沼田町	辻係長 北山主査	志和専主　生駒専主　安藤専普 太田専普　近藤専普
	地域第三係 雨竜町　北竜町	北島係長	池田専主　長田専普　倉下専職 山角普職

	区　分	責任者	備　考
本所広域担当	主任普及指導員 （農業革新支援専門員）	小柴主任普及指導員 笠原主任普及指導員	管内一円 管内一円
	担い手	桂川主査	管内一円
	情報・クリーン・有機	富樫主査	管内一円
	高付加価値化	佐竹主査	管内一円
	畑　作	森主査	本所・南東部・南西部
	園　芸	猫塚主査	管内果樹補完
	畜　産	雨宮主査	本所・南東部・南西部
支所広域担当	畑　作	主査欠員	北空知・中空知
	畜　産	齋藤主査	北空知・中空知
	果　樹	主査欠員	北空知・中空知
	園　芸	主査欠員	北空知・中空知

職員配置状況（管理職を除く）

	定数	現員数
本所	24	21
南東部支所	8	8
南西部支所	8	8
中空知支所	15	12
北空知支所	24	20
計	79	69

GAP認証取得を目指した地域の取組

～GAPチームによる連携支援&GAP指導力の向上促進～

1. 活動の背景

空知管内のGAPの状況

・GAPの認証件数は、JGAP個人認証18件(農産17件・畜産１件)JGAP団体認証１件、ASIAGAP２件、GLOBALG.A.P.１件(令和５年４月時点)となっている。

・SDGsやみどりの食料システム戦略などの情勢により、取引先企業のGAP認証農作物への関心が高まっている。

・JAながぬま白菜部会では取引先からのGAP認証取得の要望があり、将来的な団体認証取得を見据え、令和５年度はモデル農場２戸の個別認証取得を目指すこととなった。

対象農場へのGAP認証取得支援

農業者・JA・普及センターが連携し、モデル農場２戸のGAP認証取得を支援

GAP指導力の向上促進

普及センター職員、JA職員のGAPに関する知識向上とGAP指導力向上を促進

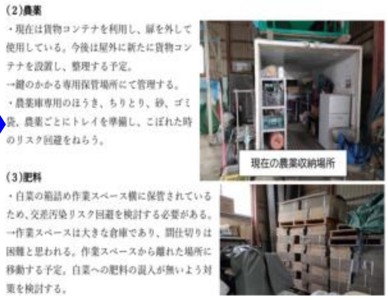
GAP認証取得へ

2. 活動の経過と成果の具体的内容

令和５年５月：認証取得に向けた農業者･JA職員･普及センターによる打合せ･農場巡回

GAPって何から始めていいか分からない。

まずみんなで農場を見て改善が必要な場所の洗い出しをしてみましょう。


(2)農薬
・現在は貨物コンテナを利用し、扉を外して使用している。今後は屋外に新たに貨物コンテナを設置し、整理する予定。
→鍵のかかる専用保管場所にて管理する。
・農薬庫専用のほうき、ちりとり、砂、ゴミ袋、農薬ごとにトレイを準備し、こぼれた時のリスク回避をねらう。

現在の農薬収納場所

(3)肥料
・白菜の箱詰め作業スペース横に保管されているため、交差汚染リスク回避を検討する必要がある。
→作業スペースは大きな倉庫であり、間仕切りは困難と思われる。作業スペースから離れた場所に移動する予定。白菜への肥料の混入が無いよう対策を検討する。

農業者･JA･普及センターでGAPチーム結成！
今後の取組について協議

管理点と適合基準に農場を照らし合わせて巡回者全員で改善方法の検討を実施

巡回結果は書面に整理し、JA・農業者へ提供

令和５年６～８月：帳票作成支援

サンプル帳票の提供・相談対応・連絡調整

町内のGAP認証農場で使用している帳票の情報収集と提供

参考資料を基に農場に合った帳票を作成

改善提案内容を一覧にして農業者、JAへ提供

GAPチーム全員で帳票確認

令和５年５～12月：普及センター･JA職員のGAPの知識習得と指導力向上

GAPｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰによる指導

隣接するJAそらち南にて、JGAP団体認証取得に向けたGAPアドバイザーによる指導が行われた
・JAながぬま、普及センター南西部支所の職員も出席
・管理点と適合基準の考え方や内部監査の進め方などを参考にする機会とした。
・普及センター南東部支所・南西部支所、広域主査、各JAで帳票作成や農場改善の事例を共有

関係者全員でGAP実践のレベルアップ！

令和５年10～11月：自己点検・不適合項目の改善検討･是正確認･本審査立会

自己点検(10月)

GAPチームで自己点検を実施
５月の巡回で不適合となった箇所は入念に確認

普及ｾﾝﾀｰ

不適合箇所を整理し、GAPチームで共有

農 業 者

不適合箇所の是正

Ｊ Ａ

不適合箇所の是正確認

初回審査(11月)

普及ｾﾝﾀｰから７名が審査に立会
審査員からの質問や指摘から、審査手法や自己点検のコツを学んだ

令和５年12月：モデル２農場JGAP認証取得

農業者の意識向上

普及センター・JA職員のGAP指導力UP

管理点と適合基準の理解
帳票作成・農場改善の経験蓄積
団体認証に関する知識習得

令和６年１～２月：GAP普及推進に向けたGAP研修会開催

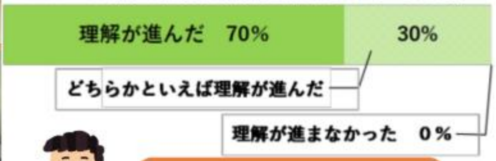
GAP報告会(１月)

モデル２農場のGAPの取組報告
管内のGAP団体認証の事例紹介

GAP団体認証学習会(２月)

GAPアドバイザーよりGAP団体認証の取組ポイントを解説

GAPへの理解の変化は？(研修会後のアンケートより)



部会･JA職員のGAP取組への理解が進んだ！

3. 今後の課題と対応

管内では本年度、JGAP団体認証1件、JGAP個別認証3件の初回審査が行われたため、維持審査に向けて支援を継続する。並行して、JAながぬま白菜部会の数年後の団体認証に向けて部会を対象としたGAP取組推進を引き続き行う。また、GAPに関心のある管内の農業者や関係機関への情報提供を行い、さらなるGAP推進を図る。

【本所：地域第二係】

複合経営の安定化と担い手を核とした地域農業の振興

～ A.N.M　(A)新しい(N)西美唄を(M)盛り上げよう ～

課題番号５

対象：美唄市西美唄地域（１９戸）

1　活動の背景

西美唄地域の概要

水稲、小麦、大豆が主体に複合経営
経 営 規 模 ： １９．２ha／戸
経営主年齢：平均５５歳（令和４年）
米麦営農組合（共同）：
西美唄米麦、元村米麦、アグリ山形

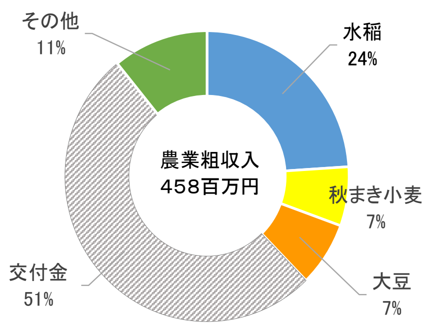


図１　Ｒ４年西美唄地域の農業粗収入

現状
- 転作作物の収入(交付金等含む)が65％を占める。
- ・３米麦営農組合が存在
- ・若手の規模拡大志向

問題点
- ・水稲と他作物の春作業競合
- ・秋小麦の収量が不安定
- 各組合間の意見交換、若手農業者が地域農業を考える場が無い

課題
- ○ 直播水稲の普及
  ＝**基本技術実践**
- ○ 秋まき小麦の収量向上
  ＝**適正肥培管理の実践**
- **○地域農業を考える会の設立と振興方策の検討**
- **○田畑転換について検討**

2　活動の経過

(1) 推進事項：直播水稲基本技術の実践

収量確保に大きく影響する苗立本数および穂数を確保するする技術と除草技術の導入を提案

苗立率向上にむけた砕土率調査

苗立状況を地域で共有

タイムリーな栽培技術を発信

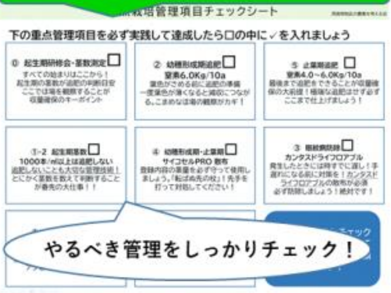
(2) 推進事項：秋まき小麦の適正肥培管理の実践

栽培暦と重点管理項目チェックシートを作成し、生育に応じた栽培管理に向け情報発信

起生期研修会～全員で茎数調査・研修

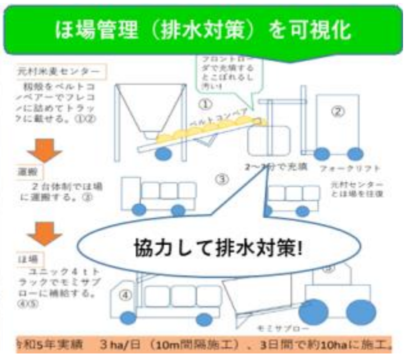
生育に応じた肥培管理にむけた情報提供

チェックシートで実践技術を確認



（3）推進事項：担い手による地域農業の振興

「田畑輪換体系でのほ場管理手引き」（以下ほ場管理手引き）について検討



3　成果の具体的内容

（1）直播水稲基本技術の実践

基本技術実践による適正穂数の確保
現況４戸
令和5年実績4戸(目標達成率57%)

収量600kg/10a達成農家
10戸

直播水稲基本技術の実践状況（12戸）

基本技術実施項目		A	B	C	D	E	H	I	K	L	N	O	Q
均平	有無	○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○
は種前後の鎮圧	有無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
は種量	kg/10a	○	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○
砕土率	%	○	△	−	○	○	○	○	○	△	−	△	○
生育調査													
苗立本数	本/㎡	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	△	○
穂数	本/㎡	◎	◎	△	◎	△	△	△	◎	△	△	△	△
収量	600kg/10a	−	△	−	◎	○	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎

※砕土率：20mm未満土塊×60%未満、△60～69%、○70%以上
※は種量：10～12kg/10a　　※は種日：5月13日まで
※苗立本数(本/㎡)　○：150～250　△：～150
※穂数(本/㎡)　◎：700～900　○：900～1,000　△：～700
※収量　◎：106%～　○：95～105%　△：～94%
※A氏、C氏はイネWCSの作付により、収量調査は中止

（2）秋まき小麦の適正肥培管理

重点項目実施農家
現況４戸
令和5年実績　12戸
（目標達成率150%）

ＪＡ平均収量以上農家
９戸

茎数に応じた施肥技術の実施戸数（13戸）

R5産 きたほなみ	具体的推進事項および穂数と収量	A	G	H	I	J	K	M	N	O	P	Q	R	S
重点栽培管理項目＊1	起生期茎数の把握	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	起生期茎数に基づく追肥の判断	○	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	幼穂形成期の適期適量追肥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	眼紋病の防除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生育に応じた幼穂形成期 止葉期の植調剤散布	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	止葉期の適期適量追肥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	発生状況に応じた赤さび病の適期防除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	穂数*2	○	○	多	○	○	○	多	少	○	○	○	○	○
	収量*3(JA平均対比)	◎	▽	◎	◎	▽	◎	○	▽	◎	○	◎	▽	○

*1　重点栽培管理項目。○：実施、適正　−：未実施、未達成
*2　穂数の評価方法。目標(600～750本/㎡)に対し、○：適正　少：少ない　多：多い
*3　収量の評価方法。JA平均に対し、◎：106%～　○：95～105%　▽：～94%

（3）担い手による地域農業の振興

「西美唄の農業を考える会」
田畑輪換体系でのほ場管理手引き
作成検討会の開催　現況0回
令和5年実績　3回
（達成率150%）

図２　ほ場管理の手引き

図３　有材心土破砕は有効な排水対策

4　今後の課題と対応

（1）直播水稲の安定多収に向けた技術改善、定着への支援を継続する。

（2）「ほ場管理の手引き」増補･活用、若手農業者への栽培技術継承に向けた支援を行う。

課題番号１５

土地利用型作物導入による生産基盤の向上

～　輪作で築く持続可能な長沼農業　～

対象：長沼町２５区（９戸）

1　活動の背景

地域の概要
- 大豆と間作小麦の交互作
- 近年は大豆収量が低下
- 子実用とうもろこしの先進地域
- 強粘質土壌で透排水性が不良
- 基盤整備後の水稲収量が不安定

課題
- 大豆の収量改善
- 子実用とうもろこしの導入推進
- 基盤整備後水稲の収量安定

目標

長沼型輪作体系の確立

大豆　子実用とうもろこし　秋小　＋　水稲

土壌透排水性改善

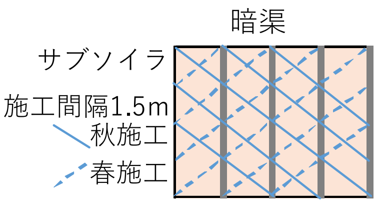
田畑輪換

2　活動の経過

大豆品質・収量の向上

　基盤整備後、水田後に作付けする２戸に対象を絞った。

　透排水性改善に向けて技術普及室と連携し、サブソイラによる「密がけ」を提案。



「密がけ」の施工概要

根粒菌数に応じた追肥を提案

基盤整備後の生産性向上（水稲）

　基盤整備後の施肥を農業者と検討・設計。

　技術普及室・試験場と連携し、培養窒素を測定。適正窒素量を検証。

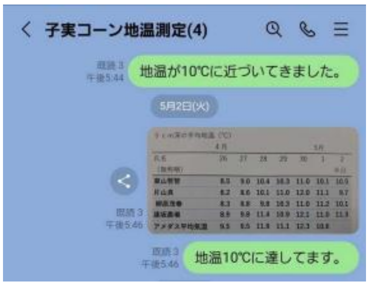
調査結果から追肥の要否を判断

試験場で培養窒素を測定

新規作物の導入・定着

　栽植本数の確保に向けて、基本技術の励行、地温１０℃以上のは種を推進。

　子実用とうもろこしの作付けが土壌にもたらす影響を調査し、作付けの有効性を示した。



ＳＮＳによる地温情報提供

土壌透排水性への影響を調査

３　成果の具体的内容

大豆品質・収量の向上

収量向上対策実施戸数（目標２戸→実績２戸）

	透水性(mm/h)		成熟期	
	は種前	生育中	茎長(cm)	葉数(枚)
Ｆ氏 (基盤整備後)	624	123	68.8	8.2
Ｉ氏 (水田後)	5	132	47.9	7.8
(参考) Ｉ氏秋小後	40	116	43.5	7.8

２戸とも密がけを実施。透排水性の目標100mm/h以上を確保

	根粒菌数(個/本)	追肥窒素量(kg/10a)	子実重(kg/10a)
Ｆ氏 (基盤整備後)	69.6	なし	442
Ｉ氏 (水田後)	16.6	10	294
(参考) Ｉ氏秋小後	24.2	5	264

根粒菌数に応じて追肥を実施。収量を確保。

Ｉ氏の声

密がけは効果があったと思うよ。水がたまらないからね。有機物を入れるために春小の後に緑肥を播いたよ。

基盤整備後の生産性向上

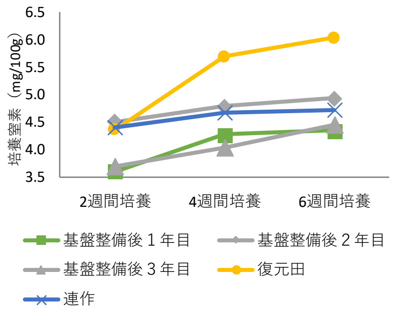
施肥改善実施戸数（目標５戸→実績５戸）

栽培法	標準植	疎植	疎植
基肥施肥率	75%		
幼形期茎数	469	153	195
窒素追肥量	-	1	1
成熟期穂数	500	507	483
倒伏程度	無	無	無

※Ｅ氏の基盤整備後１年目ほ場、品種「ななつぼし」

※茎数・穂数：本/㎡、窒素追肥量：kg/10a

茎数が少ないほ場には追肥対応。自身で設計した施肥窒素では少ないことが農業者に理解された。



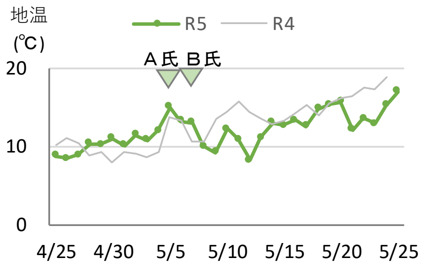
培養窒素の発現をパターン化。基盤整備後１年目ほ場の基肥施肥率を75%から80～85%とした。

Ｆ氏の声

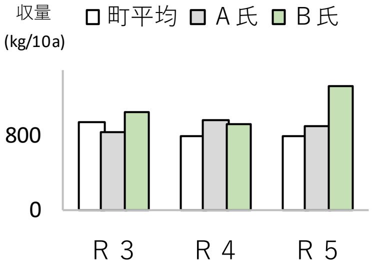
今まで、基盤整備後ほ場の施肥量は曖昧だったが、分析値を実際に見せてもらったことで納得できた。来年度以降の参考にしたい。

新規作物の導入・定着

基本技術実施戸数（目標２戸→実績２戸）



２戸とも基本技術を実施。地温の上昇を確認しては種。



発芽率９割以上を確保し、収量は町平均を上回った。

とうもろこしの根を80cm深まで到達。みず道となることを確認。

４　今後の課題と対応

・大豆品質・収量の向上、基盤整備後の生産性向上：一般活動として波及
・新規作物の導入・定着：新規作付者２～３名の収量確保に向けた支援継続

令和６年度　空知管内地域農業づくり懇談会 資料

空知農業改良普及センター
【郵便番号】　068-0818
【住　　所】　岩見沢市並木町22番地
【電話番号】　0126-23-2900
【ﾌｧｸｼﾐﾘ番号】　0126-22-2838

空知南東部支所
【郵便番号】　069-1522
【住　　所】　夕張郡栗山町中里67番地
【電話番号】　0123-72-2358
【ﾌｧｸｼﾐﾘ番号】　0123-72-7276

空知南西部支所
【郵便番号】　069-1333
【住　　所】　夕張郡長沼町本町北2丁目1-5
【電話番号】　0123-88-2004・4774
【ﾌｧｸｼﾐﾘ番号】　0123-88-4967

中空知支所
【郵便番号】　073-1105
【住　　所】　樺戸郡新十津川町字花月238番地8
【電話番号】　0125-74-2281
【ﾌｧｸｼﾐﾘ番号】　0125-74-2285

北空知支所
【郵便番号】　074-0002
【住　　所】　深川市2条19番13号 北海道深川合同庁舎
【電話番号】　0164-23-4267・4268
【ﾌｧｸｼﾐﾘ番号】　0164-23-2892

https://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html